

平成26年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立 春日 高等学校長 印

学校運営計画(4月)			評価(3月)		
学校運営方針	次代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに、自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
本校の特色を表す「春日高校五常」、「授業の心得五行」の見直しを図り、さらに文武両道に成果を上げることができるよう教職員の組織化を図っていく。小委員会の活性化により教職員の負担感軽減、そして小グループによる研究会等の活性化により教師力の向上を図りながら昨年以上の学力の伸長及び部活動の実績を上げ、本校の文武両道の特色を地域等へ情報発信する。	人としての在り方・生き方、及び学ぶ意義について考えさせ、志をより一層高め進路の実現を図る。	心視の時間(総学)を有効に活用し、志の育成を図る。 外部との連携を図り、体験的な活動やキャリア教育の視点での講演会等を実施する。 早期に進学目標大学を定め、大学研究等を行う。			
	生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いの中で「春日高校五常」とおし、豊かな人間性を育む。	基本的生活習慣の確立のために自己管理・自己指導能力の育成を図る。 学校行事等を通じ、集団活動におけるチームワークの重視、信頼関係の醸成を図る。 自他の安全を確保するためのルールやマナーの指導の継続と強化を図る。 心身の健康管理及び環境美化活動の充実を図る。			
	「授業心得五行」を徹底し、自学自習の習慣を身につけさせ、学力の向上・深化を図る。	授業心得五行を全職員で実践し、徹底する。 部活動並びに教科及び学年で協働して意欲的・自主的な学習態度の育成を図る。 指導力向上のための教科研究等を各自或いはグループ等で行う。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教科指導	一時間の授業を大切せを認識させるとともに「授業心得五行」を実践させ、意欲的・自主的学習の取組を組織的に行う。	年度始めに教科オリエンテーションを実施するとともに、「授業心得五行」の徹底を全職員で行う。	A	A	生徒の授業に対する高い意識を年間を通じて持続させるため、教科の特性に応じて「授業心得五行」を徹底するための方策を工夫する。各学年で設定した学習時間目標を安定的に達成させるため、具体的方策を工夫する。 生徒の希望進路実現に向けた教育課程の工夫・改善について検討する。
		家庭学習時間の定点調査を行い、家庭学習習慣の定着を図る。 年間出席率99%以上とし、本校に求められる基礎学力の定着を図る。	B A		
	生徒の指導及び評価の一体化を推進し、教師の教科指導力の向上を図る。	考査ごとに教科会議等を行い、評価法の点検及び指導と評価の一体化を図る。 教科研修に積極的に参加し教授力の向上を図るとともに、問題作成検討会を充実させる。 授業研究に努め、公開授業、相互授業参観の内容を前年度以上に充実させる。	B B A		
生徒指導	自己指導能力の育成を図る。	「春日高校五常」、「授業心得五行」を日々実践させ、自主・自律の精神を涵養する。 道徳教育の充実により、いじめ問題の根絶を目指し、問題行動の減少を図る。	B A	B	自らの言動を振り返ったり相手の立場で考える機会を工夫することで、思いやりやマナーを主体的に考える姿勢を養う指導を充実させるとともに、いじめや問題行動の防止を図る。 学校行事において生徒の主体性を発揮させる機会を工夫し、生徒会活動の更なる活性化と生徒の帰属意識の高揚を図る。
	集団活動におけるチームワークを重視し、信頼関係を深める。	学校行事において生徒会執行部や専門委員会のリーダーシップを発揮させる。 年間を通じて部活動加入率85%以上を実現する。	B B		
	自他の安全を確保するための指導の継続と強化を図る。	交通安全・防犯・自己防衛に係る教育を組織的・計画的に実施する。 戸締まり・消灯の習慣づけを行うとともに、下校時刻の厳守と速やかな帰宅習慣を身につけさせる。	A B		
進路指導	進路データの有効活用により、教員の進路指導力の向上を図る。	指導力向上に向けた研修会の実施や入試問題研究会等への参加を積極的に行う。 毎回、模試等の分析結果を踏まえた課題を確認し、教科目標を設定する。	A B	A	小論文指導を含めた3年間を通じたキャリア教育プランを工夫・改善し、生徒のキャリア意識の更なる高揚と入試対応力の向上を図る。 進路資料「春風」の内容を更に工夫・改善し、進路指導において有効活用する。
	生徒の進路意識・キャリア意識の向上と、高い志の継続維持を図る。	効果的な外部講座・講演会・大学訪問等を企画運営し、進路に係る意識の高揚を図る。 1年の職業・職種研究、2年の学部・学科研究及び系統的な小論文指導等を充実させる。	A B		
	心身の健康管理及び環境美化活動を充実させる。	生徒サポート委員会、学年主任等連絡会をとおして諸課題の早期対応に努める。 整美委員やグリーンスタッフの活動を更に充実させ、環境整備、エコ活動を行う。	A A		
広報活動	地域や関係機関へ情報を発信し、本校の魅力の周知に努める。	職員相互の連携体制を強化し、学校行事の円滑な運営を図る。	A	A	本校の特色を効果的にアピールする方策について検証し、広報活動の改善を図る。
		HPの充実や体験入学・進路相談事業の効果的な活用などの他、中学校訪問を充実させる。	A		
職員研修	授業評価や授業研究等をとおして授業の改善と充実を図る。	生徒や公開授業時の保護者による授業アンケートを2回以上実施する。	B	B	相互授業参観の活性化と、授業アンケート等の分析・活用について充実を図る。
		相互授業参観での参観者数を前年度の1割増を図る。	B		
保護者・同窓会等との連携	PTAや同窓会との相互理解を深め、連携して学校の発展に努める。	PTAや同窓会と連携し、総会、講演会や視察研修等の出席率の向上を図る。	A	A	PTAや同窓会との連携を密にし、開かれた学校づくりと教育活動の更なる充実を図る。
		保護者との相互理解の深化のため、クラス懇談の工夫等による更なる連携に努める。	B		
図書活用	情報発信の場としての図書館の積極的な活用を促進させる。	読書会の充実や読み聞かせボランティアへの参加をとおしてブックマイルージの登録者数の増加を図る。	B	B	教科との連携、ICT機器等の活用体制の充実を図る。
		教科との連携を図り、関係する書籍やICT活用、視聴覚教材の利用促進を図る。	B		